

### 「木材保存 研究論文投稿規程」

1. 本誌への投稿は本協会会員に限る。会員以外の共著者を含むことは差し支えない。
2. 原稿は他誌に未投稿のものに限る。
3. 論文は木材保存分野の発展に貢献するものとし、実験、試験あるいは調査に関する内容を含み、さらに新規性と有用性が求められる。
4. 査読者による本誌審査要領に従った査読結果をもとに、編集委員会で掲載の可否を決定する。
5. 原稿は研究論文執筆要領に従うこととする。なお、原稿の修正を求められることがある。
6. 投稿原稿が本協会に到着した日を受付日とし、審査が終了し掲載が可と認められた日を受理日とする。なお、字句等の訂正を編集委員会で行うことがある。
7. 投稿原稿は、原則として電子投稿とし、本協会ホームページに掲載されたファイルを使用して電子メールの添付書類として下記アドレスに提出する。なお、ファイル容量は合計5MB以内とすること。
  - ・投稿用ファイルの掲載 URL  
http://www.mokuzaihozon.org/publish/kaishi/
  - ・電子メールの送付先  
jwpa-4@mokuzaihozon.org
8. 掲載した原稿は原則として返却しない。
9. 著作権は公益社団法人日本木材保存協会に属する。
10. カラー印刷については実費を請求する。
11. 別刷を希望する場合には実費にて頒布する。
12. 投稿及び編集に関する連絡は下記宛とする。  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-5(第3松坂ビル8F)  
公益社団法人 日本木材保存協会  
電話 03-3436-4486 FAX 03-3432-1971  
電子メール jwpa-4@mokuzaihozon.org
13. 原稿送り状には、原稿発送日・著者名(日本語及びローマ字)・所属・題名・原稿枚数・別刷り希望部数・連絡先を記載する。所属・連絡先・題名の英文も記載する。

### 「木材保存 研究論文執筆要領」

1. 原稿は、ワードプロセッサ打ちとし、和文の場合は平仮名交じり横書き楷書とし、新仮名使いによるものとする。ワードプロセッサでは、和文の場合はA4版1ページあたり10.5ポイント程度で40字×28行とし、英文の場合はダブルスペースとする。
2. 原稿には英文(200語程度)ならびに和文要旨(400字程度)および5語以内のキーワード(keywords)を付する。原稿には和文ならびに英文で著者名、所属、連絡先及び題名を附する。
3. 動植物、微生物などの和文、欧語の音訳には片仮名を用いる。(例: イエシロアリ, スギ, カワラタケ, ベセル法)
4. 動植物、微生物などについては、タイトル及び本文中で最初に出てくる箇所には必ず学名を附することとする。学名の属、種の部分はイタリックとする。

5. 数字の記載には算用数字を用いる。範囲は次のようにして示す(例: 20~30℃, ただし英文中では20-30℃)。文中に分数を示すときには、次のようにする(例: 1/2)。成句と概数を示す場合は漢数字を使う。ただし、数字の前に「約」、「およそ」などがつくときや、数字の後に「未満」、「以上」などがつくときには算用数字にする(例: 約10m, およそ50枚, 10円未満, 50以上)。
6. 単位は原則として、SI単位系を使う。
7. 図、表、写真は1件ごとに別紙とし、本文原稿欄外に挿入箇所を朱記する。図と表の重複はさける。英文をかならず併記する。図表等は、カラム幅(7.7cm)、またはページ幅(16.4cm)で印刷されるので、縮小割合を考慮した線の太さ、文字の大きさを決める。図の番号(例: 図1)、標題、注などは図の下方に記入する。
8. 表はなるべく簡潔にする。表題は表の上方に記入し、注などは下方に記入する。
9. 写真は鮮明なものとし、写真下方に写真番号(例: 図1)、標題、注などを記入する。なお、研究論文においては、写真は図として扱う。
10. 引用文献は本文引用箇所の肩に1)や2, 3)もしくは7-9)などのように文献番号を付け、本文末に一括して引用順に記載する。また、著者は共著者を含めて全員と雑誌名は省略しないこと。
11. インターネットのウェブページの引用がある場合は、原則として本文中に引用先を記載する。(論文誌)  
(例1) 栗崎宏, 塚本英子, 水元克夫: 高温乾燥したスギ心材のオオウズラタケに対する耐朽性, 木材保存, **27** (2), 61-66 (2001).  
(例2) Verhey, S., Kaks, P. and Richter, D.: Laboratory decay resistance of woodfiber/thermoplastic composites, *MOKUZAI HOZON*, **39**, 44-49 (2013).  
(例3) Evans, F.G.: Restriction for use and waste management for pressure treated wood. The current situation in Norway, IRG Document IRG/WP01-50175 (2001).  
(単行本)  
(例4) 田中裕美: “木材保存学入門改訂版”, (社)日本木材保存協会編, 2001, pp.65-67. (あるいは, (社)日本木材保存協会編: “木材保存学入門改訂版”, 2001, pp.65-67.)  
(例5) Beesley, J.: “Preservation of Timber in the Tropics”, Findley, W.P.K.ed., Martinus Nijhoff/Dr.W.Junk Publishers, Dordrecht, 1985, pp.205-231.  
(報告書)  
(例6) (社)日本木材保存協会: 地域材を利用した外構材開発支援事業報告書, 平成21年3月.  
(特許)  
(例7) 保存太郎: 特開昭61-12345 (1986).  
(例8) 木材次郎: 特公平03-123 (1991).  
(例9) 処理三郎: 特許第1234567.  
(例10) Wood, P.W.: US PAT., 12340 (1986).

(2019年1月25日 改定)